

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03581

研究課題名（和文）語用論的分析のための日本語1000人自然会話コーパスの構築とその多角的研究

研究課題名（英文）Building of a Japanese 1000 person natural conversation corpus for pragmatic analyses and its multilateral studies

研究代表者

宇佐美 まゆみ（Usami, Mayumi）

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・教授

研究者番号：90255894

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、語用論的分析に適する『BTSJ』で文字化された世界最大規模の『1000人日本語自然会話コーパス』を構築することによって、語用論、コミュニケーション学の研究を促進し、その成果を日本語教育に応用することを企図した。今回、新たに動画データも追加し、514会話を収録して完成させ、共同構築型多機能データベースである『自然会話リソースバンク（NCRB）』にも本コーパスを格納して連携させ、公開した。さらに、NCRBには日本語教育用の「自然会話を素材とする教材」が簡単に作成できる「教材作成支援機能」を搭載し、研究と教育の双方を連携させながら運用できるプラットフォームとして完成させ、無料で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

延べ1000人分の語用論的分析に適する『基本的な文字化の原則（BTSJ）』による文字化資料と音声データを含む世界最大規模の『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス（2023年3月NCRB連動完成版）』を完成させ、共同構築型多機能データベース『自然会話リソースバンク（NCRB）』上での動画視聴も可能にした。約3000人以上と多くの研究者に利用され、論文発表もなされたことが、本コーパスが語用論・コミュニケーション研究の促進に貢献したことを示している。また、NCRBの「教材作成支援機能」が世界中における「自然会話を素材とする教材」の共同構築を可能にし「研究と教育」を関連させた社会的意義も大きい。

研究成果の概要（英文）：This study aims to promote research in linguistics and communication studies and apply the results to Japanese language education by constructing the world's most extensive corpus of Japanese natural conversation by 1000 speakers encoded by BTSJ, which is suitable for pragmatic analysis. This final version compiled 514 conversations, including newly added video data. In addition, this corpus was stored in and linked to the Natural Conversation Resource Bank (NCRB), a collaborative multi-functional database. Furthermore, the NCRB is equipped with a "support function for creating teaching materials" that makes it easy to create "teaching materials using natural conversations" for Japanese language education, thus having been completed a platform that can work while linking both research and education.

研究分野：語用論 談話研究 自然会話分析 言語社会心理学

キーワード：BTSJ自然会話コーパス 語用論 自然会話分析 コミュニケーション能力養成 日本語教育 自然会話を素材とする教材 自然会話リソースバンク ディスコース・ポライトネス理論

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

- (1) 近年、自然会話コーパスを活用した「語用論的研究」、及び、その日本語教育、異文化間コミュニケーション教育への応用の需要が著しく高まっていたが、語用論的分析に必須の同時発話、割り込み、沈黙、あいづち、中途終了型発話(言いさし)、フィラー、音調等の要素が記述され、且つ相互作用を示す「談話の流れ」が可視化された「語用論的分析に適したコーパス」はほとんどなかった。
- (2) また、語用論的研究は、質的分析が中心になっていたが、データを条件統制して収集することによって、量的分析も可能にし、質的分析から得られた結果の妥当性や信頼性を科学的に検証できるようにすることによって、語用論的研究の結果の信頼性を高め、語用論的研究全体の質を向上させる必要があった。
- (3) しかし、これら会話データの収集と文字化、個人情報保護等には、膨大な時間と労力、経費を要するため、小規模コーパスを限られた集団で構築し、利用せざるを得ない状況であった。その状況を打破し、自然会話コーパスに基づく語用論的研究をより活性化していくためには、このような貴重な会話データをより多くの研究者間で共有して活用できるシステムを構築して、研究を促進することが喫緊の課題であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、語用論とコーパス研究の融合を図るとともに、その方法論をより科学的なものにすることによって、語用論研究の質の向上を目指し、分野に貢献することである。また、自然なコミュニケーション能力の養成に関する研究を促進し、日本人のコミュニケーション能力に関する研究、及び、日本語教育に留まらない言語教育学に貢献することである。そのために、以下を行う。

- (1) 語用論的分析に適した『BTSJ 日本語自然会話コーパス』に、日本語学習者の会話、年少者の日本語会話等を追加・拡充し、多様な場面におけるシナリオのない自然会話を収録する『BTSJ 1000人日本語自然会話コーパス』を構築し、広く公開する。
- (2) 本コーパスの基礎統計情報を算出して特徴を明らかにするとともに、語用論的分析に必須のコーディング、分析などの方法論を確立する。
- (3) 多様な場面における自然会話の研究によって、コミュニケーション能力、異文化間コミュニケーション能力の習得過程を、理論的、実践的に分析し、自然なコミュニケーション能力を育成するための言語教育、及び、日本人の国語教育に生かす。

3. 研究の方法

「コーパス班」「言語研究班」「基礎理論班」の3つの班を設け、各代表が班内でとりまとめた研究を、統括班がまとめ、相互に連携をはかりながら研究を推進した。

「コーパス班」

- (1) 既存の会話データも含め、多様化・均衡化に配慮しながら会話データを追加するとともに収録した会話データは、語用論的分析に適する『基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)』によって文字化した。
- (2) コーパスには、会話データ自体に加えて、話者の属性や話者同士の関係、会話がなされた状況の説明など、会話の背景や社会的情報についても整備した。
- (3) また、本コーパスの利用の利便性と効率的な活用方法を促進するために、「共同構築型多機能データベース」である『自然会話リソースバンク(Natural Conversation Resource Bank: NCRB)』に本コーパスを格納して連携させた。
- (4) NCRBには日本語教育用の『自然会話を素材とする教材』が簡単に作成できる「教材作成支援機能」を搭載し、研究と教育の双方を連携させながら運用できるプラットフォームを構築した。
- (5) 語用論の研究者の定量的分析を効率化し、語用論的研究を促進するためのツールである『BTSJ 文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット(BTSJシステムセット)』を開発した。
- (6) 『BTSJシステムセット』の正確な活用を促すため、「BTSJシステムセット活用方法講習会」を複数回開催した。加えて、「総合的会話分析の方法論」についても講習会を行い、コーディング方法などの指導と普及に努めた。

「言語研究班」

- (1) 「日本語会話の総合的考察」として、本コーパスのデータを用いて、日本語の母語話者、非母語話者の会話の丁寧率などを、定量的・定性的双方の観点から多角的に分析・考察した。
- (2) 対照研究も交えて日本語自然会話を多角的に分析することによって、談話行動・異文化間コミュニケーションのメカニズムとそれを日本語教育に生かす方法を検討した。
- (3) 共同構築型多機能データベースである『自然会話リソースバンク(NCRB)』に本コーパスを格納して連携させ、その中のいくつかのデータを教材化した。

- (4) NCRB には日本語教育用の『自然会話を素材とする教材』が簡単に作成できる「教材作成支援機能」を搭載し、研究と教育の双方を連携させながら運用できるプラットフォームを構築した。

「基礎理論班」

- (1) この班は、「ディスコース・ポライトネス理論」、「雑談対話システムのモデル構築」等、世界的にも独創的・先駆的な研究に携わっている研究者を中心に、コーパスのデータを活用しながら、基礎理論の検証と新たなモデル構築を行った。

4. 研究成果

「コーパス班」

- (1) 最終的に、語用論的分析に適する『基本的な文字化の原則 (BTSJ)』による文字化資料と音声データを収録した世界最大規模の『BTSJ1000 人日本語自然会話コーパス(2023 年 3 月 NCRB 運動版)』(延べ 1000 人分の 514 会話, 約 127 時間)を完成させ、無料で公開した。
(https://isplad.jp/lab/btsj_corpus_2023/)
- (2) コーパスには、会話データ自体に加えて、話者の属性や話者同士の関係、会話収集の条件など、会話の背景や社会的情報についても整備し、会話情報シートも同梱し、公開した。
(ダウンロード形式で配布)コーパス申込み
(<https://isplad.jp/form/corpus/index.html>)
- (3) また、公開された本コーパスの利用の利便性と効率的な活用方法を促進するために、「共同構築型多機能データベース」である『自然会話リソースバンク (Natural Conversation Resource Bank: NCRB)』に本コーパスを格納して連携させ、NCRB 上で「動画」も公開した。
NCRB の説明 (<https://isplad.jp/lab/ncrb/>)
NCRB へのアクセス (<https://ncrb.jp/>)
- (4) NCRB には日本語教育用の『自然会話を素材とする教材』が簡単に作成できる「教材作成支援機能」を搭載し、研究と教育の双方を連携させながら運用できるプラットフォームとして完成させ、無料でオンライン公開した。(<https://ncrb.jp/>)
- (5) 語用論の研究者の定量的分析を効率化し、語用論的研究を促進するためのツールである『BTSJ 文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット (BTSJ システムセット)』を開発した。(https://isplad.jp/lab/about_btsj-btsj_system_set/)
- (6) 『BTSJ システムセット』の正確な活用を促すため、「BTSJ システムセット活用方法講習会」を開催し、参加者に『BTSJ システムセット』を無料で配布した。また、「総合的会話分析の方法論」についても講習会を行い、コーディング方法などの指導と普及に努めた。
(https://isplad.jp/lab/seminar/btsj_tutorial/)
- (7) 利用希望者が、講習会に当面参加できなくても『BTSJ システムセット』を受領できるよう、「BTSJ システムセット活用方法講習会」の「オンラインチュートリアル版」を HP 上に作成し、チュートリアル修了者全員が受領できるようにした。
(https://isplad.jp/btsj_tutorial/online_lesson/)

「言語研究班」

- (1) 「日本語会話の総合的考察」として、本コーパスを対象として、日本語の母語話者、非母語話者の会話の丁寧率などを、定量的・定性的双方の観点から多角的に分析した。(業績リスト参照)
- (2) 対照研究も交えて日本語自然会話を多角的に分析することによって、談話行動・異文化間コミュニケーションのメカニズムとそれを日本語教育に生かす方法を検討した。(業績リスト参照)
- (3) 共同構築型多機能データベースである『自然会話リソースバンク (NCRB)』に本コーパスを格納して BTSJ コーパスと NCRB を連携させた。(<https://ncrb.jp/>) 「自然会話を使った研究」
- (4) NCRB には日本語教育用の『自然会話を素材とする教材』が簡単に作成できる「教材作成支援機能」を搭載し、研究と教育の双方を連携させながら運用できるプラットフォームを構築した。(<https://ncrb.jp/>) 「自然会話を素材とする研究」

「基礎理論班」

この班は、「ディスコース・ポライトネス理論」、「雑談対話システムのモデル構築」等、世界的にも独創的・先駆的な研究に携わっている研究者を中心に、コーパスのデータを活用しながら、基礎理論の検証と新たなモデル構築を行った。(業績リスト参照)

<参考文献>

- 宇佐美まゆみ (2020) 「語用論的分析に適した『基本的な文字化の原則(BTSJ)』開発の背景とその特徴」宇佐美まゆみ編『自然会話分析への語用論的アプローチ-BTSJ コーパスを利用して-』ひつじ書房. 1-16.
- Usami, Mayumi. (2021) 「教材作成支援機能を持つ共同構築型 WEB 教材 - NCRB (Natural Conversation Resource Bank) の展開 - 」In Arun Shyam. (ed.) Japanese Language Education in South Asia - Issues and Challenges-. Hyderabad: The English and Foreign Languages University Press : 252-272.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 28件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 1
2. 論文標題 自然会話を素材とする共同構築型Web教材NCRB - 自然会話データの分析を踏まえて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語プロフィシェンシー研究の広がり	6. 最初と最後の頁 209-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mayumi Usami	4. 巻 8
2. 論文標題 Intersection of discourse politeness theory and interpersonal communication". Handbook of Japanese Sociolinguistics	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Handbook of Japanese Sociolinguistics	6. 最初と最後の頁 355-386
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/9781501501470-013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ・張未未	4. 巻 9
2. 論文標題 観光接触場面における日本語インタラクションーロシア人留学生の宿泊場面を例にー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東海大学大学院日本語教育学論集	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 1
2. 論文標題 はじめに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇佐美まゆみ（編）『日本語の自然会話分析ーBTSJコーパスから見たコミュニケーションの解明』くろしお出版	6. 最初と最後の頁 v-xx.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 1
2. 論文標題 第1章 語用論的分析に適した『BTSJ日本語自然会話コーパス』構築の趣旨と特徴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇佐美まゆみ(編)『日本語の自然会話分析-BTSJコーパスから見たコミュニケーションの解明』くろしお出版	6. 最初と最後の頁 1-19.
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 1
2. 論文標題 教材作成支援機能を持つ共同構築型 WEB 教材 - NCRB (Natural Conversation Resource Bank) の展開 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Arun Shyam. (Ed.). (December 2020). Japanese Language Education in South Asia - Issues and Challenges-. Hyderabad: The English and Foreign Languages University Press.	6. 最初と最後の頁 252-272.
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 21-2
2. 論文標題 相手とのちょうどいい距離感を掴む ディスコース・ポライトネス理論(特集:アサーションをはじめよう-コミュニケーションの多元的世界へ)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 196-202.
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ・張未未	4. 巻 1
2. 論文標題 日中接触場面の雑談における母語話者と非母語話者による「バランスをとるための笑い」の分析 - 『BTSJ 日本語自然会話コーパス(2020年版)』を用いて -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語資源活用ワークショップ発表論文集	6. 最初と最後の頁 301-314.
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00003170	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東中竜一郎, 船越孝太郎, 稲葉通将, 角森唯子, 高橋哲朗, 赤間怜奈, 宇佐美まゆみ, 川端良子, 水上雅博	4. 巻 35
2. 論文標題 対話システムライブコンペティションから何が得られたか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人工知能学会誌	6. 最初と最後の頁 333-343.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚容子	4. 巻 1
2. 論文標題 自然会話における感動詞「あっ」の機能 - 日本語教育の観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇佐美まゆみ (編) 『日本語の自然会話分析-BTSJコーパスから見たコミュニケーションの解明』くろしお出版	6. 最初と最後の頁 139-160.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyamoto Tomoki, Katagami Daisuke, Shigemitsu Yuka, Usami Mayumi, Tanaka Takahiro, Kanamori Hitoshi, Yoshihara Yuki, Fujikake Kazuhiro	4. 巻 12
2. 論文標題 Influence of Social Distance Expressed by Driving Support Agent 's Utterance on Psychological Acceptability	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1-14.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.526942	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 1
2. 論文標題 第1章 コーパス研究の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コーパス研究の展望	6. 最初と最後の頁 1-44.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 重光由加	4. 巻 1
2. 論文標題 質問行為に伴う配慮 - 初対面会話と親しい者同士の男性の雑談より -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇佐美まゆみ(編)『日本語の自然会話分析-BTSJコーパスから見たコミュニケーションの解明』くろしお出版	6. 最初と最後の頁 85-111.
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 -
2. 論文標題 対話システム研究と談話研究の接点 言語研究から貢献できることは	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2019年度日本語教育学会秋季大会予稿集	6. 最初と最後の頁 27 - 28
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 204(5)
2. 論文標題 21世紀礼拝現象研究の可能性 話語礼拝理論の新発展 (原文「21世紀のポライトネス理論研究の可能性-ディスコース・ポライトネス理論の新展開-」(李瑤 訳))	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日語学習と研究	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 -
2. 論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」、「よ」、「よね」の使用実態の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語学会2019年度秋季大会予稿集	6. 最初と最後の頁 207-210
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陳朝陽, 宇佐美まゆみ	4. 巻 36(11)
2. 論文標題 基于語料庫的日語母語者的反駁言語策略研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Hubei University of Education	6. 最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 -
2. 論文標題 なぜ自然会話を素材とするWeb教材が言語と文化の教育に最適なのか? 21世紀の教材のあり方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第23回AJEヨーロッパ日本語教育シンポジウム要旨集	6. 最初と最後の頁 62-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陳朝陽, 宇佐美まゆみ	4. 巻 -
2. 論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス』における反論ストラテジーの分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集	6. 最初と最後の頁 251-257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本友樹, 片上大輔, 重光由加, 宇佐美まゆみ, 田中貴紘, 金森等, 吉原佑器, 藤掛和広	4. 巻 31(3)
2. 論文標題 ポライテネス理論に基づく運転支援エージェントにおける発話の文末スタイルに着目した印象評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 知能と情報	6. 最初と最後の頁 739 - 744
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3156/jssoft.31.3_739	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東中竜一郎, 船越孝太郎, 稲葉通将, 角森唯子, 高橋哲朗, 赤間怜奈, 宇佐美まゆみ, 川端良子, 水上雅博	4. 巻 -
2. 論文標題 対話システムライブコンペティション2	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語・音声理解と対話処理研究会研究会資料	6. 最初と最後の頁 42 - 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川 慎一郎	4. 巻 435
2. 論文標題 日本語自然対話における丁寧体否定形「ナイデス」「マセン」の選択 BTSJコーパスを用いた検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 統計数理研究所共同研究リポート	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永井 望, 宮本 友樹, 片上 大輔	4. 巻 32
2. 論文標題 Seq2Seqモデルを用いた文末表現の異なる対話システムの評価	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 知能と情報	6. 最初と最後の頁 523-527
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3156/jsoft.32.1_523	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ・山崎誠	4. 巻 -
2. 論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス (トランスクリプト・音声) 2018年版』の紹介と『BTSJ文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット』を用いた分析法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 計量国語学会第62回大会予稿集	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ・山崎誠	4. 巻 -
2. 論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』における一人称・二人称代名詞の使用実態	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語学会2018年度秋季大会予稿集	6. 最初と最後の頁 221-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 23
2. 論文標題 談話研究と言語教育 1960年代から現在までの流れ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヨーロッパ日本語教育第23号	6. 最初と最後の頁 194-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美まゆみ	4. 巻 23
2. 論文標題 『総合的会話分析』に基づく研究 『BTSJ日本語自然会話コーパス』と『自然会話リソースバンク (NCRB)』との連携に触れながら	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヨーロッパ日本語教育第23号	6. 最初と最後の頁 206-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小沢一仁、重光由加	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 授業現場における質問と発問の違い - 語用論と心理学の視点から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京工芸大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本友樹、片上大輔、重光由加、宇佐美まゆみ、田中貴紘、金森等	4. 巻 30(5)
2. 論文標題 ポライトネス・ストラテジーに基づく会話エージェントの言語的な振る舞いの違いが人との関係性構築にもたらす効果～初対面における冗談の心理効果～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本知能情報ファジー学会	6. 最初と最後の頁 653-765
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 重光由加	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 インドの言語環境とELF使用場面から見る英語コミュニケーション能力 インド人と日本人のビジネス・パーソンへの座談会から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京工芸大学紀要	6. 最初と最後の頁 26-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 重光由加	4. 巻 25
2. 論文標題 聞き手による会話の修復とラポール: 談話分析的アプローチによるELF接触場面のケース・スタディ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語処理学会第25回年次大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 838-841
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英	4. 巻 43
2. 論文標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指してー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育システム情報学会第43回全国大会講演論文集	6. 最初と最後の頁 401-402
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚容子、宇佐美まゆみ、伊藤敏	4. 巻 25
2. 論文標題 動画からうなずきの半自動検出と談話研究への応用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語処理学会第25回年次大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 868-871
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 414
2. 論文標題 現代日本語発話における男女話者による文末詞の使用 BTSJコーパスを用いた大学生発話の計量分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 統計数理研究所共同研究リポート	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計66件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 15件)

1. 発表者名 Mayumi Usami
2. 発表標題 The concepts of 'time' and 'face credit' in discourse politeness theory: New perspectives on politeness behavior between acquaintances
3. 学会等名 9th International Symposium on Intercultural, Cognitive and Social Pragmatics (EPICS). (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 視点としての「(日本語教育)学」という捉え方の必然性, パネルセッション (企画: 宇佐美まゆみ)「21世紀の日本語教育学を考える 視点としての「学」という観点から -
3. 学会等名 2020年度日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ・張末未
2. 発表標題 雑談における日本語学習者による不自然な終助詞「ね」、「よ」、「よね」 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』を用いて
3. 学会等名 国立国語研究所第210回NINJALサロン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ・張末未
2. 発表標題 雑談における母語話者と非母語話者の笑いの使用傾向の分析：『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』を用いて
3. 学会等名 日本語学会2020年度春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 BTSJ日本語自然会話コーパスと自然会話を素材とするWEB教材NCRB (Natural Conversation Resource Bank) -その活用法-
3. 学会等名 早稲田大学日本語教育研究科小林ミナ研究室主催 (ゲストセッション) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 自然会話リソースバンク (NCRB) と自然会話を素材とする教材の活用法 - デモンストレーションを交えて -
3. 学会等名 オーストリア日本語教師会 第51回定例勉強会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 自然会話データを使った日本語教育 - BTSJ日本語自然会話コーパスを例に -
3. 学会等名 オーストリア日本語教師会 第51回定例勉強会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス（2020年版）』の特徴と活用法 - 「フォルダの意味」と「会話データ情報一覧シート」を中心に -
3. 学会等名 シンポジウム「日本語教育は、自然会話コーパスで変わる！ - 『BTSJ日本語自然会話コーパス』の特徴と日本語教育への生かし方 -」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 日本語の自然会話とディスコース・ポライトネス理論
3. 学会等名 第39回NINJALチュートリアル
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 対話システムと日本語教育の関係とは？
3. 学会等名 令和2年度国立国語研究所日本語教師セミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 人間同士の自然会話分析への多角的アプローチ - 総合的会話分析と対話データの自動処理 -
3. 学会等名 第91回 言語・音声理解と対話処理研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ・張末未
2. 発表標題 観光接触場面における日本語インタラクション - ロシア人留学生の宿泊場面を例に
3. 学会等名 多言語社会と言語問題シンポジウム2020
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス』の開発の趣旨と特徴－NCRBとの連携
3. 学会等名 第4回会話・談話研究シンポジウム「『BTSJ日本語自然会話コーパス』と『自然会話を素材とする共同構築型WEB教材NCRB』の展開
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 自然会話リソースバンク(Natural Conversation Resource Bank: NCRB) 構築の趣旨
3. 学会等名 第4回会話・談話研究シンポジウム「『BTSJ日本語自然会話コーパス』と『自然会話を素材とする共同構築型WEB教材NCRB』の展開」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片上大輔, 山本隆太郎, 宮本友樹, 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 対話型擬人化エージェントの言語的配慮に対する受容性の異文化比較に関する研究 - クラウドソーシングによる大規模印象調査 -
3. 学会等名 HAIシンポジウム2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 間接発話理解のプロセスの解明がなぜ重要なのか 本公募研究の趣旨に代えて
3. 学会等名 「日本語の間接発話理解：第一言語，第二言語，人工知能における習得メカニズムの認知科学的比較研究」研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 「日本語の間接発話理解」研究の方法論的問題点について：第一言語習得と第二言語習得の比較研究を例として
3. 学会等名 「日本語の間接発話理解：第一言語，第二言語，人工知能における習得メカニズムの認知科学的比較研究」研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mayumi Usami
2. 発表標題 Universality vs. culture specificity in politeness from the viewpoints of discourse politeness theory and Language Education
3. 学会等名 9th Annual Conference on Foreign Language Teaching and Applied Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 重光由加, 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 インドの観光コミュニケーション会話の収集とその活用法
3. 学会等名 第1回話用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoki Miyamoto, Daisuke Katagami, Yuka Shigemitsu, Mayumi Usami, Takahiro Tanaka, Hitoshi Kanamori, Yuki Yoshihara, Kazuhiro Fujikake
2. 発表標題 Proposal of Driving Support Agent which Speak Based on Politeness Theory
3. 学会等名 International Conference on Human-Computer Interaction 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 陳朝陽, 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス』における反論ストラテジーの分析
3. 学会等名 言語資源活用ワークショップ 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 重光由加, 大塚容子, 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 日本語学習者の間接発話の習得：質問紙調査報告（2）
3. 学会等名 日本語の間接発話理解：第一言語、第二言語、人工知能における習得メカニズムの認知科学的比較研究シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」、「よ」、「よね」の使用実態の分析
3. 学会等名 日本語学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mayumi Usami
2. 発表標題 New version of Discourse Politeness Theory: Focusing on the concepts of "face-balance principle" and "time sequence"
3. 学会等名 2019 New Zealand Linguistic Society conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iori Kasahara, Mayumi Usami, and Minoru Karasawa
2. 発表標題 Stereotype Priming Effects on Language Use: Applying Morphological Analysis on Conversational Data
3. 学会等名 2020 Society for Personality and Social Psychology Convention (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 視点としての「(日本語教育)学」という捉え方の必然性
3. 学会等名 2020年度 日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 雑談における母語話者と非母語話者の笑いの使用傾向の分析：『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』を用いて
3. 学会等名 日本語学会2020年度春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 ディスコース・ポライトネス理論の新たな展開
3. 学会等名 東海大学文学部研究会FD講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 日本語の自然会話とディスコース・ポライトネス理論
3. 学会等名 第33回 NINJALチュートリアル
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 語用論的分析に適したコーパスとは？
3. 学会等名 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ、山崎誠
2. 発表標題 『BTSJ自然会話コーパス』の全体的な特徴と今後のデータ拡充について
3. 学会等名 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuka Shigemitsu
2. 発表標題 An analysis of social talk in ELF interaction between Japanese and Indian people
3. 学会等名 16th International Pragmatics Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuka Shigemitsu
2. 発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people
3. 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大谷麻美, 岩田祐子, 大塚容子
2. 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み: 英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために
3. 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大塚容子
2. 発表標題 小学生と成人の会話の収集と今後の研究の可能性
3. 学会等名 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎誠, 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 『BTSJ自然会話コーパス』の形態素解析の ための補助ツールの開発について
3. 学会等名 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎誠
2. 発表標題 『BTSJ 日本語自然会話コーパス2018年版』における母語話者と学習者の語彙的比較
3. 学会等名 2019年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 『BTSJ自然会話コーパス』を用いた 話者属性研究の方法について 男女大学生の文末詞使用を例に
3. 学会等名 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永井望，宮本友樹，片上大輔
2. 発表標題 Seq2seqモデルを用いた文末表現の異なる対話システムの評価
3. 学会等名 FSSシンポジウム2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 総合的会話分析による研究 - BTSJ日本語自然会話コーパスを例に -
3. 学会等名 2018年日本語教育国際研究大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 談話研究と言語教育
3. 学会等名 2018年日本語教育国際研究大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ・山崎誠
2. 発表標題 自然会話の分析がなぜ平和のための対話教育につながるのか？ 自然会話コーパスの分析から言えること
3. 学会等名 2018年日本語教育国際研究大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mayumi Usami and Makoto Yamazaki
2. 発表標題 Quantitative Characteristics of the BTSJ Japanese Natural Conversation Corpus (BTSJ-Corpus) ver. 2018: focussing on the differences of the use of polite forms according to sub-groups.
3. 学会等名 International Quantitative Linguistics Conference (QUALICO 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mayumi Usami
2. 発表標題 How do age and gender factors influence on politeness strategies in Japanese conversation between newly acquainted people?
3. 学会等名 the 11th International Conference on Im/Politeness (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mayumi Usami
2. 発表標題 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion
3. 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 会話から人間を探る！悪態と慇懃無礼、どっちがポライトなの？ -BTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化-
3. 学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ・張洋子・小川都
2. 発表標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス』の特徴と活用法
3. 学会等名 NINJALシンポジウム 「データに基づく日本語研究」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 自然会話分析とディスコース・ポライトネス理論の展開の可能性
3. 学会等名 言語コミュニケーション・フォーラム（関西学院大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 ポライトネス理論とAI
3. 学会等名 国立国語研究所 日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明 第3回会話・談話研究シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 重光由加
2. 発表標題 話し相手としてのAI 日本語を話すAIとのコミュニケーションに何を求めるか
3. 学会等名 国立国語研究所 日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明 第3回会話・談話研究シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 第8-10回 BTSJ活用方法講習会
3. 学会等名 言語社会心理学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 自然会話コーパスへの言語社会心理学的アプローチ
3. 学会等名 言語社会心理学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 BTSJ日本語自然会話コーパスとは？
3. 学会等名 平成30年度 国立国語研究所日本語教師セミナー（海外）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 BTSJ日本語自然会話コーパスとNCRB (Natural Conversation Resource Bank)
3. 学会等名 平成30年度 国立国語研究所日本語教師セミナー（海外）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小沢一仁、重光由加
2. 発表標題 授業現場における質問と発問の違い - 語用論と心理学の視点から -
3. 学会等名 教師教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoki Miyamoto, Daisuke Katagami, Yuka Shigemitsu, Mayumi Usami, Takahiro Tanaka, Hitoshi Kanamori, Yuki Yoshihara, and Kazuhiro Fujikake
2. 発表標題 Toward a construction of the politeness theory adaptable to HAI research: On going evaluation of conversational agents considering gender bias
3. 学会等名 NGHAI2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮本 友樹、片上 大輔、田中 貴紘、金森 等、吉原 佑器、藤掛 和広、重光 由加、宇佐美 まゆみ
2. 発表標題 あなたはどっち派？ユーザ属性に応じて受容性の高いポライトネス方略を選択する運転支援エージェント
3. 学会等名 HAIシンポジウム2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 重光由加
2. 発表標題 聞き手による会話の修復とラポール： 談話分析的アプローチによるELF 接触場面のケース・スタディ
3. 学会等名 言語処理学会第25回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤敏、大塚容子、鷺野嘉英
2. 発表標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指して
3. 学会等名 教育システム情報学会第43回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Itou Satoshi, Otsuka Yoko, Washino Kaei and Inoue Shoshi
2. 発表標題 Extraction of Human Behavior Information from Movie with Camera by Image Analysis
3. 学会等名 Innovation, Mandalay by IEEE (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大塚容子、宇佐美まゆみ、伊藤敏
2. 発表標題 動画からのうなずきの半自動検出と談話研究への応用
3. 学会等名 言語処理学会第25回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 『自然会話リソースバンク (NCRB)完成版』と『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス (2023年NCRB連動完成版)』の連携の趣旨と特徴 他 のオンライン日本語教材とどこが違うのか？」
3. 学会等名 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス (2023年3月NCRB連動完成版)』と『自然会話リソースバンク (NCRB)』の新展開 (その多様な活 用方法)」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宇佐美まゆみ
2. 発表標題 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス（2023年3月NCRB運動完成版）』の特徴と新しい使い方について
3. 学会等名 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス（2023年3月NCRB運動完成版）』と『自然会話リソースバンク（NCRB）』の新展開（その多様な活用方法）」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山崎誠
2. 発表標題 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス（2023年3月NCRB運動完成版）』の形態素解析について
3. 学会等名 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス（2023年3月NCRB運動完成版）』と『自然会話リソースバンク（NCRB）』の新展開（その多様な活用方法）」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大塚 容子・重光由加
2. 発表標題 JFL環境における日本語学習者の「日本語らしさ」ーインドの授業のデータ分析よりー
3. 学会等名 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス（2023年3月NCRB運動完成版）』と『自然会話リソースバンク（NCRB）』の新展開（その多様な活用方法）」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本真由美
2. 発表標題 NYUの中上級の授業におけるNCRBの実践
3. 学会等名 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス（2023年3月NCRB運動完成版）』と『自然会話リソースバンク（NCRB）』の新展開（その多様な活用方法）」
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 宇佐美 まゆみ (編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 282
3. 書名 日本語の自然会話分析 - BTSJコーパスからみたコミュニケーションの解明	

1. 著者名 宇佐美まゆみ (編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 396
3. 書名 自然会話分析への語用論的アプローチ-BTSJコーパスを利用して -	

1. 著者名 Yoshiyuki Asahi, Mayumi Usami, and Fumio Inoue (eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 De Gruyter Mouton	5. 総ページ数 669
3. 書名 Handbook of Japanese Sociolinguistics	

1. 著者名 鎌田 修 (監修代表), 鎌田 修 (編), 由井 紀久子 (編), 池田 隆介 (編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 465
3. 書名 日本語プロフィシェンシー研究の広がり	

〔産業財産権〕

[その他]

BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年3月NCRB運動完成版)について
https://isplad.jp/lab/btsj_corpus_2023/
 宇佐美まゆみ研究室
<https://isplad.jp/lab/>
 宇佐美まゆみ研究室 研究業績
<https://isplad.jp/lab/research/>
 日本語学習者の日本語使用の解明
<https://isplad.jp/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山崎 誠 (Yamazaki Makoto) (30182489)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・教授 (62618)	
研究分担者	大塚 容子 (Otsuka Yoko) (10257545)	岐阜聖徳学園大学・外国語学部・教授 (33704)	
研究分担者	重光 由加 (Shigemitsu Yuka) (80178780)	東京工芸大学・工学部・教授 (32708)	
研究分担者	石川 慎一郎 (Ishikawa shinichiro) (90320994)	神戸大学・大学教育推進機構・教授 (14501)	
研究分担者	片上 大輔 (Katagami Daisuke) (90345372)	東京工芸大学・工学部・教授 (32708)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小川 都 (Ogawa Miyako) (00824822)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・プロジェクト非常勤研究員 (62618)	削除：2022年6月30日
研究分担者	松井 智子 (Matsui Tomoko) (20296792)	東京学芸大学・国際教育センター・教授 (12604)	削除：2018年12月25日

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	母 育新 (Wu Yuxin)	西安外国語大学	
研究協力者	李 宇霞 (Li Yuxia)	広東外語外貿大学	
研究協力者	李 揺 (Li Yao)	西安師範大学	
研究協力者	松本 真由美 (Matsumoto Mayumi)	ニューヨーク大学	
研究協力者	南 雅彦 (Minami Masahiko)	サンフランシスコ州立大学	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小川 都 (Ogawa Miyako)	専修大学	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
	中国	西安外国語大学	広東外語外貿大学	西安師範大学
米国	ニューヨーク大学	サンフランシスコ州立大学		